

柏木家寄贈資料について

荒 卷 直 大

**Kashiwagi family collection donated Yamaguchi Prefectural Yamaguchi Museum**

Naohiro Aramaki

山口県立山口博物館研究報告

第46号(2020年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.46(March 2020)



## 柏木家寄贈資料について

荒巻 直大<sup>1)</sup>

Kashiwagi family collection donated Yamaguchi Prefectural Yamaguchi Museum

Naohiro Aramaki

### 1 はじめに

当館は平成26（2014）年9月12日付けで、柏木幸助（安政3（1856）年～大正12（1923）年）の曾孫にあたる柏木節夫氏（山口市在住）から柏木家に関する資料32件37点の寄贈を受けた。当館ではこれらの資料の受贈をうけて、平成26（2014）年11月27日から12月4日まで、県政資料館・旧県会議事堂においてテーマ展「きらり山口！人物伝」を、当館において平成30（2018）年4月20日から6月24日までコーナー展示「きらり山口！もの作り人物伝」を開催し、資料の一部を披露した。

本稿では、寄贈を受けた資料のうち、紙幅の関係上、柏木幸助の主な業績に関係する資料7点を紹介する。

最初に柏木家と柏木幸助（本名 房次郎）の主な業績について略述する。柏木家は代々周防国三田尻（現・山口県防府市）に続く旧家で、代々薬種商を営んでいたが、文政期から魚せり場株を取得するようになる、防府の有力商家であった。柏木家では代々、家督を継ぐものが「幸助」を襲名することとしていた。柏木幸助は本名を房次郎といい、安政5（1856）年、柏木治助の次男として生まれ、明治5年（1872年）、から明治7年（1874年）まで牟礼の桂権吾に化学を学んだ後に、明治11（1878）年6月、華浦医学校で理化学を学んだ。明治8年（1875）年、当時輸入に頼っていたマッチの製造に成功し、明治10（1877）年には発火薬に赤燐を用いた安全マッチの製造に成功、付近の失業士族を雇ってマッチ工場の操業を始める。その際、明治10（1877）年、東京上野で開催された第一回内国勧業博覧会に柏木工場の安全マッチが出品され、受賞した。その後も、会社組織にして工場を拡張し、製品は清国にも輸出した。しかし、明治15年（1882年）2月、工場が燐剤の調査を誤って焼失した。父治助は再建を許さず、マッチ製造業から撤退する。他方で、幸助は寒暖計からヒントを得て体温計研究に着手する。明治16（1883）年9月、国産第一号の体温計の製造に成功する。体温計製造にあたって、大阪道修町の薬種商白井治兵衛に相談している。同年、



柏木 幸助（房次郎）

1) 山口県立山口博物館（考古）

生産を開始する。その後、体から離しても温度表示が下がらない「留点体温計」がドイツで発明されると、毛細管を漏斗状にする技術的問題を解決し、明治18（1885）年11月、その製造に成功し、後に柏木体温計は国内市場を独占するようになる。

明治32（1899）年、幸助は醤油速成醸造法の研究に着手、原料の主成分を糖化させる酵素（ジアスターゼ）を発見した。すでに高峰讓吉が発見していたが、原料・製造方法が異なっていた。明治36（1904）年ジアスターゼの製品化に成功した。その後大正7（1918）年3月ジアスターゼ工場が全焼し、製造事業を断念し、大正9（1920）年、三共株式会社（現・第一三共株式会社）に製造販売権を譲渡した。大正12（1923）年、防府で没する。

柏木幸助の出身地である防府市では防府市青少年科学館（ソラル）前に銅像が建てられ、同館では平成26（2014）年3月に「防府のエジソン柏木幸助展」を開催し、情報や資料の提供を呼びかけるなど、熱心な顕彰活動を展開している。また、防府青年会議所は市内小中学校をまわってその足跡をわかりやすく紹介し、防府薬剤師会も様々な顕彰活動に協力している。

## 一 覧

No	資料名	年代	法量	品質・形状	員数
1	柏木体温計一覧(65本)	昭和初期	77.7×86.6	額装	1
2	柏木体温計セット	昭和中期	25.6×17.5×2.9	箱入	6
3	体温計絵図	大正期	18.6×23.8	額装	1
4	クロース(髪染め)広告	大正7(1918)年6月	23.8×18.6	額装	1
5	ゼヒ体温計と熱のお話	大正14(1925)年	11.1×15.0	小冊子	1
6	柏木体温計型録	昭和初期	12.5×18.1	小冊子	1
7	柏木体温計株式会社概要	昭和初期	12.8×18.0	小冊子	1
8	株式会社柏木験温器製造所経歴書	昭和中期	14.8×20.9	小冊子	1
9	柏木体温計看板	昭和中期	54.4×36.3	ホーロー製	1
10	柏木体温計看板	昭和中期	54.4×36.0	ホーロー製	1
11	緑綬褒章賞状	大正5(1916)年11月5日	73.7×52.2	額装	1
12	紺綬褒章賞状	大正13(1924)年3月15日	73.5×52.5	額装	1
13	緑綬褒章賞状	昭和15(1940)年11月10日	76.5×61.0	額装	1
14	藍授褒賞賞状	昭和28(1953)年5月7日	62.2×41.6	額装	1
15	日本赤十字社有功賞	明治21(1888)年	7.0×10.5×2.4	箱入	1
16	日本赤十字社特別社員章	明治21(1888)年	5.4×8.9×2.3	箱入	1
17	緑綬褒賞勲章	大正5(1916)年11月5日	5.5×9.8×1.7	箱入	1
18	紺綬褒賞勲章	大正13(1924)年3月15日	5.3×9.8×1.7	箱入	1
19	緑綬褒賞勲章	昭和15(1940)年11月10日	5.4×9.8×2.3	箱入	1
20	藍授褒賞勲章	昭和28(1953)年5月7日	5.4×9.6×2.4	箱入	1
21	韓国釜山影島柏木式 醤油醸造場写真	明治43(1910)年2月	19.9×13.9	乾板写真	1
22	柏木幸助(房次郎)肖像写真	大正期	61.4×76.6	額装	1
23	柏木体温計工場版画	大正期～昭和初期	41.4×34.2	石版画	1
24	柏木幸助(房次郎)銅像	昭和初期	19.6×43.4×19.5	箱入	1
25	柏木幸助(房次郎)翁碑銘	昭和初期	6.5×25.6×5.8	箱入・卷子装	1

26	柏木幸助(敬介)肖像写真	昭和中期	44.0×55.5	額装	1
27	柏木験温器製造所 検定部玄関写真	昭和初期	41.2×50.4	額装	1
28	柏木家に関する記録	明治初期～大正期	19.5×24.8×3.3	冊子	1
29	防府行啓記念写真集	昭和31(1956)年	41.1×38.6×6.0	箱入・冊子	1
30	ステッキ (柏木幸助(房次郎)愛用)	大正期	11.0×88.5		1
31	フォトやまぐち	平成5(1993)年6月	25.0×33.2	冊子	1
32	杉孫七郎漢詩	明治43(1910)年3月28日	7.5×65.2×7.0	箱入・掛幅装	1

### 凡 例

一、記載項目は、資料名/制作年代/品質・形状/員数/解説、の順である。

一、法量は、原則として本紙・本体のもので、単位はセンチメートルである。

一、人名については、別名などがあるため記述の煩雑を避け、一般に通用しているものを使用した。

柏木家では代々、「幸助」を襲名するため柏木幸助（1856～1923）、柏木敬介（1882～1975）父子ともに「柏木幸助」と表記されているため、（ ）内に本名を付した。

## 2 寄贈資料について

### 1 柏木体温計一覧(65本)

昭和初期か

額装

一面



柏木家で保管されていた、柏木体温計65本を額装したもの。大正期から昭和初期にかけての平型水銀体温計が主に収蔵されている。病院専用平型体温計製品の裏には「公立大館病院用」、「京都大学病院用」、「南満州鉄道大連医院用」等印字されているものがある。「内国勸業博覧会賞牌複製」を上部左右に貼付。これら柏木体温計の一部は明治23（1890）年、東京上野で開催の第三回内国勸業博覧会では、有功賞牌を、明治28（1895）年、京都岡崎で開催の第四回同博覧会では二等賞牌を受賞。平成5年（1993）年に寄贈者により改装。



## 2 柏木体温計セット

昭和中期

6本一揃(本来は7本一揃か)

箱表紙に「最高級品柏木体温計」。本来は7本一揃であるが、1本欠失。残存の6本向かって左より「半分計棒状」、「一分計棒状」、「M号棒状」、「一分計M平」、「M号平型」、「病専平型」と型ごとに寄贈者により付記。

## 9・10 柏木体温計看板

昭和中期

ホーロー製

左 54.4×36.3 右 54.4×36.0



## 21 韓国釜山影島柏木式醤油醸造場写真

明治43(1910)年2月

乾板写真

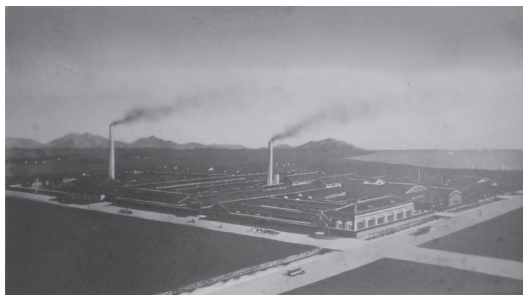


「明治43(1910)年2月撮影ナリ」と付記。「柏木ジアスターゼ」製造過程で多量に使用する酒精を安価に入手するため、韓国・釜山影島に柏木式醤油醸造場を建設。日韓併合後、防府へ工場を移転。

23 柏木体温計工場版画

大正期  
石版画

大正時代、防府市にあった柏木体温計工場の石版画。



28 柏木家に関する記録

(写真：柏木幸助と白井治兵衛)

明治初期～大正期  
冊子

明治初期から大正期にかけての柏木家に関する記録。幸助(房次郎)絶筆書簡写真など7点を寄贈者がまとめたもの。右は写真7点のうち1点で、向かって右が幸助、左が大阪道修町の白井松医療器械店の白井治兵衛。体温計製造、販売契約等に関わった。柏木体温計創業20周年を記念して明治35(1905)年春、撮影。撮影地不明。撮影者は防府市・宮市で開業していた写真師、渡邊五洲と考えられる。





## お 礼

まず、改めて貴重な資料をご寄贈いただいた柏木家の皆様に厚くお礼を申し上げる。また、資料の調査にあたって、岩下貴文氏をはじめ防府市青少年科学館の皆様にご助力をいただいた。末尾ながらお礼を申し上げる。

## 略 年 表

和暦	西暦	内 容
安政3年	1856年	老舗薬種商の家に、柏木治助の次男房次郎(幸助の本名)、三田尻(現防府市)で生まれる
明治5年	1872年	牟礼の桂健吾に化学を学ぶ(明治7年まで)
明治8年	1875年	マッチの製造法に成功
明治10年	1877年	安全マッチの製造に成功し、生産開始 秋、山口県物産展に出品し賞賛される
明治11年	1878年	県立華浦医学校で理化学を学ぶ
明治14年	1881年	東京上野開催の第1内国勧業博覧会において安全マッチが受賞
明治15年	1882年	薬品の配合あやまり、マッチ工場が焼失
明治16年	1883年	日本初の国産水銀体温計(無留点体温計)製造に成功
明治18年	1885年	留点水銀体温計の製造に成功
明治29年	1896年	三田尻(現防府市)で防長実業新聞を発刊
明治32年	1899年	醤油速成醸造法の研究に着手
明治36年	1903年	醤油速成醸造法研究中、ジアスターゼの一種(消化酵素ジアスターゼ)を発見
明治37年	1904年	酒精蒸留器を発明し、特許取得
明治41年	1908年	防長薬剤師会会長に就任
明治44年	1911年	三田尻港築堤の三田尻海水浴場に観潮楼を設ける
大正5年	1916年	緑綬褒章受章
大正8年	1919年	柏木ジアスターゼ工場焼失
大正9年	1920年	柏木強力ジアスターゼを仏で特許取得、製造販売権を三共株式会社へ譲渡
大正10年	1921年	柏木強力ジアスターゼ英でも特許取得
大正12年	1923年	三田尻で逝去、光妙寺に葬られる(67歳)

## 参考文献

- 井関九郎 撰, 1987, 近代防長人物誌 人, マツノ書店復刻.
- 重枝慎三, 2006, 柏木体温計と地域社会 地域活性化の先駆者柏木幸助を中心として, 柏木幸助顕彰会 社団法人防府薬剤師会.
- 田中助一, 1951, 防長医学史, 防長医学史刊行後援会.
- 防府市史編纂委員会 編, 1998, 防府市史 通史 3 近代・現代, 防府市.
- 御園生翁甫 編, 1963, 防府市史. 下巻, 防府市教育委員会.
- 夢チャレンジ出版事業刊行委員会, 2007, 夢チャレンジきらり山口人物伝 Vol.1, 山口県ひとづくり財団.